

特定非営利活動法人 環境の杜こうち 2009 年度第 2 2 回理事会議事録

1 日時 2010 年 3 月 13 日(土) 13 時 30 分～15 時 30 分

会場 こうち男女共同参画センター プライベート室

2 理事総数および出席者数

理事総数 14 名 出席者数 5 名
出席理事 石川、兼松、松本、谷地森、西村
事務局 上田、近藤、松本、塚崎

3 議長 議長 _____ 印

4 議事録署名人 議事録署名人 _____ 印 ・ _____ 印

5 議事録作成人 事務局 (上田 史)

議長は定款に基づき理事長が就いた。議事録署名人は松本理事、谷地森理事、議事録作成は事務局とすることを全員一致で承認した。

6 議事

審議事項第 1 号 平成 22 年度事務局体制について (資料 1)

■現職員体制について

事務局より、①現時点ではほぼ判明している事業内容と収入予定に沿って体制を考える、②現在の職員 5 名体制でフルタイム勤務を維持するよう努力する、の 2 つの案についてシミュレーションした人件費と事業収入の金額を示し、平成 22 年度の体制について審議を求めた。

- [意見]
- ◇ ①②案とも、委託事業をこなすだけで終わってしまう可能性がある。まずは事業の中身を精査する必要があるのではないかと。
 - ◇ 現在の職員 5 名体制を維持する場合、事務局経費として不足するのは約 100 万円。環境省事業の収入をやりくりして補える金額ではないだろうか。
 - ◇ 平成 22 年度生涯学習フォーラムで高知自然学校構想を提案する計画がある。環境の杜こうちのミッションに近いと考えるので、その構想づくりの事業(約 180 万円)を獲得することを考えたい。
 - ◇ 生涯学習フォーラムは、次年度以降に繋がっていくものか。
→フォーラム自体は次年度で終了するが、自然学校構想が継続される。
 - ◇ 人材豊富なのが環境の杜こうちの利点。会員がもっと『環境の杜こうち』という名前を使って事業を立ち上げる努力をする方向に向かうほうがよい。

決定事項

- ◇ 議長が平成 22 年度事務局体制について審議を求め、職員 5 名のフルタイム勤務体制を維持することが承認された(出席理事 5 名+書面表決 3 名)。平成 22 年度は、法人の資産に生涯学習フォーラム等の自主事業の収入を加えた予算で事務局を運営する。
- ◇ 今後は事業を精査し、中間支援的役割に重きを置いていく。高知県からの委託事業については、予算が減っても仕事量が変わらないのではという心配がある。県が出した仕様書に合わせて事業費の積算をし、逆に予算に合わせた仕様書を作り県に提示して、自分たちのやる仕事の範囲を示す。仕事を減らすのか、目標値を落とすのかをはっきりと県に示してもらおう。

■ふるさと雇用再生環境共生型住宅普及促進事業について

事務局より説明。

- [意見]
- ◇ 2 年間の委託終了後の財源が明確でない。3 年度以降も県が人件費をだすのであれば、受けない方がよいと思う。
 - ◇ エコハウスを温暖化防止センターで活用するとしたら、その内容は?
→推進員の研修、講座や宿泊体験の企画等が考えられる。
 - ◇ 管理業務を請け負わずとも、温暖化防止センターの事業等への利用だけをさ

せてもらうことはできないのだろうか。

- 決定事項** ◇プロポーザルの参加については、県への質疑において2年間の委託期間終了後の人件費について質問し、人件費が確保できるなら参加する方向で検討する。エコハウスを環境の杜こうちのミッションに合う活用ができるかどうか、県との質疑で検討しながら、欠席理事とメーリングリスト上で再度議論し、3月27日に理事長・副理事長および出席可能な理事が集まり、最終判断を決定することとする。

検討事項第1号 平成21年度決算に向けて（検討資料1）

- [説明] ◇収入は約4900万円で決算となる見込み。
◇「エコまなぶ貸出事業」はまだ予算の50%しか使えていない。備品の購入等も可能なので必要な備品があれば購入を。

- 確認事項** ◇その他21年度中に必要な経費があれば、部会で検討して今月中に執行すること。

検討事項第2号 積み残し事業について（検討資料1）

- [説明] ◇スタッフ人件費支援は、調査をしてくれる人が見つからず執行が遅れているが、環境の杜こうちとして、継続して取り組むべき事業であると考え。
◇「環境の杜こうち事業評価軸検討」については、吉井理事が提案した評価方法に取り組めば膨大な時間がかかるのだろう。内部で評価するポイントを挙げ、特徴的な部分を評価していく方法でなければできないのではないか。

- 決定事項** ◇「スタッフ人件費支援」は平成22年度も継続する。「環境の杜こうち事業評価軸検討」については、3月27日の外部評価委員会終了後、事務局で4月中旬までに評価をまとめる。

検討事項第3号 平成22年度事業について（検討資料2）

平成22年度事業計画について説明。自主事業のすすめ方について検討した。

- 確認事項** ◇自主事業について、前年度からの継続を希望する事業は、各プロジェクトリーダーが報告書を出し継続の意思表示をする必要がある。事業の提案・採択については、理事会で方向性を話し合った上で、あとは運営委員会や部会に任せる。
◇環境活動自主事業の「学校移動博物館」と「環境学習プログラムづくり」、環境活動団体支援の「ホップステップ支援事業」、「スタッフ人件費支援事業」はいずれも継続する方向で検討中である。

検討事項第3号 自立事業について

- [意見] ◇事業提案は事務局からでもできるが、運営者である理事の意見が欲しい。
◇本当に社会に必要なミッションがあれば、応援してもらえると考えて、積極的に事業提案をして欲しい。

- 確認事項** ◇自立事業には理事にも深く関わって欲しい。理事は環境の杜こうちのミッションについて話し合う機会を持ち、方向性を確認する。やりたいことを整理していく。

報告事項第1号 会員について

事務局長より報告した。

報告事項第2号 その他

事務局長より報告した。

① 交通エコポイント社会還元事業について（資料：報告1）

小学生が電車に乗る機会が少なく、将来の顧客になる可能性が低いと、乗車経験をさせようという企画。ですかの貸し出し窓口をえこらぼが運営する。

② 太陽光発電補助金受付窓口業務について

都道府県の受付窓口が22年4月より廃止になる。申請者（代行業者）は、直接J-PECとやりとりすることになるが、任意で書類のチェックをするサービスは今後も続けていきたい。書類はFAX・メールで受け付ける。